



ナラティブ・メディスン教育ネットワーク主催

実践「ナラティブ・メディスン」

「コロンビア大学のワークショップでは何をする?」「パラレル・チャートを体験しよう」

日時 2016年12月04日(日) 10:00~16:30

会場 立命館大学大阪いばらきキャンパス (<http://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/oic/>)

募集定員 50名程度 参加費 無料(要事前申込)

プランナー 齋藤清二(立命館大学総合心理学部) / 安達映子(立正大学社会福祉学部) / 栗原幸江(がん・感染症センター都立駒込病院)

臨床現場は「病を巡る物語り」に満ちています。細やかに五感をとき澄まし、「語られていること」「語られていないこと」に意識を向けつつ、対話を通じてともに紡がれる「物語り」のプロセスを大切にすることを通じて医療者自身も「物語り能力」を養い、その相互のやり取りのプロセスが、医療者の臨床力を磨き、患者/家族との信頼関係を育みます。

ナラティブ・メディスン(Narrative Medicine: NM)は、米国コロンビア大学のリタ・シャロン教授によって2000年からスタートした教育研修プログラムです。文学・芸術・映像・音楽といった多彩な媒体を用いて、「注意深く五感を研ぎ澄まし相手と向かい合う」「病の物語りを細やかに読み解く」「自分なりの表現を磨く」といった物語能力(Narrative Competence)を育むことを目的としたこのプログラムは、医学教育から始まり、現在は看護師やソーシャルワーカー、薬剤師やリハビリスタッフなど多職種医療スタッフの間にも広がっています。

今回のセミナーは、NMの教育方法を日本でさらに活用するための試みです。コロンビア大学で提供されているワークショップの紹介、そして「パラレル・チャートを書く」という演習、グループディスカッション等を通じて、今後日本の臨床や教育の現場におけるナラティブ・メディスン導入のアイデア、教材選択やカリキュラム作成につなげていきたいと考えています。

● **申込み方法** : ナラティブ・メディスン教育ネットワーク e-mail: nmnetwork.jpn@gmail.com

メールでお申し込みください (タイトル: 1204 研修参加希望 本文: 下記①~⑥を含めてください)

①氏名(ふりがな) ②所属 ③職種 ④連絡先住所(連絡先住所が所属施設の場合は施設名・部署までご記入ください) ⑤電話番号 ⑥参加希望動機

受講可能となりました方には折り返し詳細情報をお送りいたします。

申し込み締め切り: 11月25日(金)

●プログラム

9:30-10:00	受付	
10:00-10:10	開会挨拶・WS趣旨説明	齋藤清二 栗原幸江
10:10-11:40	コロンビア大学のナラティブ・メディスンワークショップ概要： ～基礎編と応用編～	栗原幸江
11:40-11:50	休憩	
11:50-12:20	パラレル・チャート演習(導入)	安達映子
12:20-13:40	昼食(各自ご用意ください。キャンパス内にスタバやセブンイレブン等あります。) ※この昼食時間内に各自パラレル・チャートを書いていただきます	
13:40-14:40	パラレル・チャート演習(シェアと振り返り)	安達映子
14:40-14:50	休憩	
14:50-15:50	グループディスカッション 「日本の臨床教育にナラティブ・メディスン・プログラムの方法を取り入れる」	齋藤清二/安 達映子/栗原 幸江/参加者
15:50-16:00	休憩	
16:00-16:30	振り返り・まとめ・アンケート記載	

【ナラティブ・メディスン教育ネットワークの活動】

ナラティブ・メディスン教育ネットワークでは「ナラティブ・メディスン」の教育方法を日本でさらに活用していきたいと考え、臨床や教育の現場でナラティブ・コンピテンス(「物語り力」)を磨くための教材や方法を検討しています。今回のセミナーは「笹川記念保健協力財団 研究助成 助成番号:2016A-013 ナラティブ・メディスン』アプローチを用いたコミュニケーション教育プログラム開発」の研究(研究責任者:栗原幸江)の一環としての開催です。①セミナー中の質疑応答内容やグループ・ディスカッションの録音、②セミナー後のアンケート記載、③記録用写真撮影にご協力いただけることを参加の条件とさせていただきますことをご了承ください。

●お問い合わせ先: ナラティブ・メディスン教育ネットワーク事務局 (責任者:栗原幸江)

e-mail: nmnetwork.jpn@gmail.com